

国府小学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

基礎基本を身につけ、自己の課題に気付き、主体的・対話的に学ぶ児童を育てる
～かかわりあって つくる学び～

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
鎌田 依里 (北濱 亮)	校長 蔭山善宏 教務 鈴江京子 教諭 1年学年主任:河井史子 2年学年主任:米田美恵 3年学年主任:新居善江 4年学年主任:高見寛子 5年学年主任:竹内直子 6年学年主任:岡本賢司 特別支援学級主任:鈴木千草

校長

蔭山 善宏

【各校の取組状況の把握について】

研究授業や研究会の積極的な実施、教師自身の振り返りアンケートを定期的に行い、取組み状況の把握に努める。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字の読み書きや計算の反復練習には真面目に取り組み、一定の定着が見られる。 ●漢字の意味や同音異義語、算数の計算や立式の意味などの理解が不十分な児童がいる。	・基礎的・基本的な知識や技能を確実に身につけている。 ・学んだ知識を他の学習場面や生活の中で活用することができる。	・朝の活動で、漢字・計算の反復学習や学期末の朝活強化月間を継続し、基礎学力の定着をはかる。前学年の復習プリントを活用する。 ・具体物や資料による教材の可視化、めあての明示、振り返りの時間の確保等により、よくわかる授業づくりに努める。 ・タブレットを活用し、個人の課題を解決する時間を確保する。	・朝の活動において、漢字・計算の反復学習を計画的に実施し、基礎の徹底を図る。 ・タブレットを家庭学習でも積極的に活用し、個別の課題解決を図る。	・朝の活動や授業時間の中で、基礎的な学習や反復練習を実施した教員の割合は92%であった。 ・「先生が授業を工夫してわかりやすく教えてくれる」と答えた児童は93%であった。	・学力調査の結果から、文章を最後まで的確に読み取ることが十分ではないという課題が見取れたため、重要語句にアンダーラインを引いたり、声に出して読んだりする活動を取り入れていく。 ・朝の活動やドリル学習など、基礎基本の定着を継続して行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○調べ学習では、課題に真面目に取り組み、分からなかったことや見つけたことを自分なりにまとめる努力をすることができる。 ●自分の考えをまとめたり、他者の意見を取り入れて、新しい考えを創造したりすることに課題があり、伝える手段も未熟なため、自信を持って、自分の言葉で表現することができない。	・根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを分かりやすく伝えることができる。 ・他者の意見を取り入れて自分の考えを言ったり、書いたりすることができる。	・各学年に応じた発表ナビや話し合いナビを活用し、朝の学習時間などで話し合い活動を取り入れる。 ・アクティブラーニングを積極的に取り入れ、表現の仕方を工夫させたり、授業中に考える時間を確保したりする。 ・シンキングツールを効果的に取り入れる。 ・タブレットを活用した学習を積極的に取り入れる。	・発表ナビや話し合いナビを活用し、自らの考えや思いを伝え合う機会を確保する。 ・グループでの話し合いにシンキングツールやタブレットを有効的に活用する。	・発表ナビや話し合いナビを活用した教員の割合は70%であった。 ・ICTを活用することによって、多様な意見に触れることができ、児童の思考や表現の幅が広がっている。 ・シンキングツールやタブレットを活用したと回答した教員は71%であった。	・ナビを活用しながらも、見なくても話す、聞く、話し合うことができるようにし、友達発言から自分の考えを深め全体へ共有できるように指導していく。 ・質問力を高めるため、伝え合う活動を増やすなど様々な学習形態を授業に取り入れていく。 ・ICTやシンキングツールの活用について研修を通して知見を深め、教師だけでなく児童自らが効果的に活用できるようにしていく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○全体的に学習に真面目に取り組もうとする意識は高い。自主学習にも熱心に励み、主体性が高まっている児童が多い。 ●学習に対する姿勢が受動的であり、自ら学ぶという主体的な取組には至っていない。家庭学習においても継続的に根気強く取り組む態度が身につけていない児童も見られる。	・各教科の学習に対して主体的に取り組むことができる。 ・授業や家庭学習に積極的に取り組み、意欲的に活動したり、内容を工夫して自主学習を継続したりすることができる。 ・自己の課題を自覚し、その解決に向けて根気強く取り組むことができる。	・アクティブラーニングの授業改善を試み、児童の学習意欲を高め、主体性の育成を図る。 ・自主学習の手引きをさらに具体化したり、賞賛したりする機会を多く設けることで、自主学習の習慣化を図る。 ・タブレットを活用して、多様な教材を利用した学びの深化を図り、課題を自覚させるとともに、課題解決の時間を確保する。	・丁寧に自主学習に取り組んでいる児童を称賛することによって、意欲を高め主体性の育成を図る。 ・ICTを活用して、教材や学び方の工夫をし、主体的に学べる環境作りに努める。	・「主体的に学習する態度を身に付けられるようにするための授業改善に取り組んでいる」と答えた教員は98%であり、「進んで学習に取り組むことができている」と答えた児童は87%であった。 ・教員、家庭とも65%以上が「家庭学習が身につけている」と回答している。 ・ICTを活用した授業改善により、自主的に課題に取り組む様子が見られる。	・主体的に学習に取り組めたと回答した児童は多かったが、「進んで発表した」と回答した児童は67%と低かったため、自らの思いや考えを発表したいと思える学習課題の設定や学習形態を工夫していく。 ・家庭学習の定着はまだまだ十分ではないため、学年便りや懇談等で家庭への協力を求めていく。

令和6年度 学力向上ロードマップ

